

2017年のグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダについての熟考

私のグルを認識する シャラダ・アンドレアッタ

身体の内部の働きに、私はいつも魅了されてきました。大学で生物学の授業を取っていた時、息がどのように体の中に入っては出ていくのか、心臓がどのように自らのリズムで鼓動するのか、消化はどのように進んでいくのかなど、思考するマインドの指示なしにすべてが働くことに驚きを抱いたことを覚えています。この身体の働きに魅かれたことが、私を医学の道へと進ませました。私は、人体内部の不思議で目に見えない機能について、もっと知りたいと思っていました。でも、医学部の初年度の終わりに近づく頃には、人体は、暗記して分析すべき個々の部分の集まりに過ぎなくなっていました。私はがっかりしました。私は、その外観の中に隠された空間、つまり魂のための物理的空間を見つけることを半ば期待していたことに気づきました。でも、心臓は血液で満たされ、脳は組織で満たされ、骨でさえも骨髄で満たされていました。もしも身体が寺院ならば、神様は一体どこにいるのでしょうか。

解剖学の最終試験の前日、学校の廊下を歩いている時、あるポスターに気がつきました。ポスターに近づいて見ると、翌日の夜、近くのホールで瞑想の師、グルマーイ・チッドヴィラーサーナンダの講演会が開かれると書いてありました。私はさらに近づき、グルマーイの瞳をじっと見詰めました。その瞬間、呼吸は止まり、私の活発なマインドは沈黙しました。私は、彼女の瞳の向こうに無限に見える深みに驚嘆したのです。めったにない静寂の瞬間に心を奪われ、私はそこに一晩中立っていたいと思いました。その時、「勉強をする時間だ！」と、私は現実

に引き戻されました。間仕切りで仕切られた勉強スペースに納まり、そして、その夜遅くまで人体の骨や筋肉について暗記しながら、私は人の心をつかんで離さないグルマーイの瞳を思い出し続けていました。

次の日、試験が終わるとすぐに、私にとって初めてのグルマーイとのサツツァングに急ぎました。到着すると、ちょうどグルマーイが優雅にホールに入ってきて、正面の席に着くところでした。昨夜私と時間を過ごしたあの魅惑的な同じ瞳が、今まさに私の目の前で輝いています。グルマーイが話している間ずっと、彼女をじっと見詰めながら、私は、私にとってまれな出来事である美しい精神的静寂の長い瞬間を体験しました。そして、この静寂と共に、私の心の中に優しい感情が湧き起こりました。

翌日、私はグルマーイの存在の中で味わった心の静けさを追求するため、地元のシッダ・ヨーガ瞑想センターを探しました。初めて「シュリー・グル・ギター」を朗唱していた時、第 93 節が私の目を引きました。それはグルのことを、「彼は、世俗的存在の病気を治す医者である」と言っていました。この大昔の詩の中に、私は自分の診断書を見つけたのです。私は健康でしたが、平凡で世俗的な営みに慢性的に満足できなくなっていました。自分の存在の意味と目的に疑問を感じていました。すぐに、私のマインドは新しい疑問で満たされました。どの医者が、世俗的存在に不満な私を治してくれるのだろうか。それはグルマーイなのだろうか。

それから約 1 年後、私はグルマーイの中西部への「教えの旅」の一つへ、グルマーイと共に過ごすために旅をしました。サツツァングの終わりに、私はダルシャンでグルマーイの前にひざまずいて、どうしても聞きたかった質問をしました。

「自分のグルを見つけたかどうか、どのようにして分かるのでしょうか」。私の知性は、聞くであろうと予測していた基準を分析しようと待ち構えていました。ところが、グルマーイは笑ったのです。彼女は左側に座っていたスワームに向けて、言いました。「彼女は、あなたがあなたのグルを見つけたことを、どのようにして分かったのかを尋ねていますよ」。彼はちょっと彼女に笑い返しました。それからグルマーイは少し間を置き、真面目な表情になりました。そして、私の方に体を傾け、低い声で、私の質問に別の質問で答えました。「あなたは喉が渇いて水を飲む時、もう十分飲んだということ、どのようにして分かりますか」

私の脳は一瞬停止してしまいました。グルマーイの投げ掛けた質問に困惑しながら、サツァングを後にしました。

医学訓練を終えるまでの何年かの間、私はできる限りグルマーイと共に時間を過ごしました。時間の許す限り、シッダ・ヨーガの修行にも深く取り組みました。時間が経つにつれ、私は自分の身体がより元気で軽く、エネルギーに満ちあふれたように感じることに気づき始めました。それはまるで、息が詰まるような部屋の中から、すがすがしい澄んだ山の空気の中へ踏み出すような気分でした。時に、私にほほ笑みかける人に気づき、なぜだろうと思ひ、それはただ、私がそれと知らずに人にほほ笑んでいたからだと気づくのでした。しばしば、一人で歩いている時に、身体の中心からこれといった理由もなく、自然と笑いが込み上げてくることがあります。これら外側に現れるものは、私のマインドや知性からの情報なしに湧き上がってくるものでした。私のマインドが理解するずっと前から、私の身体はグルマーイが私の世俗的存在を治す医者であることを知り、表現しているかのようでした。彼女は私の内なる喜びを目覚めさせたのです。

やがて、私の知性は私の身体がすでに知っていたことを認識しました。グルマーイと出会い、彼女の恩恵を受け、そしてシッダ・ヨーガの修行をすることが、私の一瞬一瞬の現実の体験を変容させたことに気づきました。外の生活に対してずっと抱いていた不満は解消されました。穏やかな内面が成長し、身体という寺院の中の自分自身の至福に満ちた大いなる自己に気づくようになりました。私は、自分が本当は何者なのかを発見したのです。

グルマーイの質問は、真のグルについての揺るぎない真実の発見に私を導きました。私の最も深い存在の中心には、認識する者がいます。私の内なる大いなる自己は、グルマーイを認識し、私の知性と身体に知識を伝えました。これまでの人生で、私は偉大なる愛の瞬間を知り、深い洞察を得て、超越した幸福を体験してきました。しかし、私が絶えず存在する真実と喜びに満ちた内なる大いなる自己の意識に目覚めたのは、サッドグルであるグルマーイの恩恵のみによるものです。